

令和七年度 専修大学附属高等学校入学試験問題

国

語

注意

- 一、試験時間は五十分です。
- 二、問題は一ページから十五ページまでです。
- 三、答えはすべて解答用紙の指定の欄に記入しなさい。
- 四、答えを書きなおすときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。
- 五、問題用紙も、試験終了後回収します。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、出題の都合で改行や小見出しを省いたところがある。（解答は全て句読点、記号も一字に含める。）

インターネットが誕生して五〇年以上、ワールドワイドウェブ（World Wide Web）^{*1}が登場して三〇年以上の年月が経ちました。いまから三〇年前の一九九〇年のはじめには、わずか数百万人だったインターネットの利用者は、いまや全世界で五〇億人を超え、インターネットは早くも世界中を覆い尽くそうとしています。

私たちの日々の生活に欠かせないインフラ^{*2}となったインターネットは、ただの便利なツールというだけにとどまらず、私たちが生きる社会の仕組みも大きく変えてきました。数学や物理学、天文学などのサイエンスをベースに新たな道具をつくり出し、社会そのものを変える。テクノロジーが、それまでの自然環境に代わる人工的な環境を生み出して社会を支える。それはもはや「文明」^①と呼んで差し支えないレベルのできごとです。

インターネットをひとつの「文明」^{*3}として見たときに、ここ数年で最大の話題は、間違いなくCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）^{*4}によるパンデミックでした。二〇二〇年に入って、COVID-19の流行が全世界に広がり、さらなる感染爆発を防ぐために、世界中の都市でロックダウンが実施されました。自宅から一歩も出られないので、仕事にも学校にも行けず、買い物もできない。多くの人がインターネットなしには生活することさえできない状態に迫^②込まれました。

仕事も、学校も、買い物も、暇つぶしのゴラクも、すべてインターネット^aケイユ^bでもたらされる。COVID-19によって、世界中の人たちがインターネットに依存するように強制されたと考えた人もいます。

インターネットの歴史上、これは□ I のできごとでした。それがどれほど大きなインパクトを全世界にもたらしたのか。ひとつの例を取り上げてみましょう。

二〇一九年、まだ全世界がCOVID-19の存在に気づいていなかったときに、東京工業大学のDLab（未来社会DESIGN研究センター）がテクノロジーベースの未来像を二四のシナリオにまとめた「未来シナリオ」^③を発表しました。二〇三〇年からはじめて、二〇四〇年、二〇五〇年……、未来に実現しているであろう社会の姿を描いたものです。

たとえば、二〇四〇年のシナリオでは、「ほとんどの仕事はオンライン化され、旅をしながら働くことができるようになる」「おうち完結生活」が実現するとされていました。インターネットが生活の中にこれまでに以上に浸透して、会社に行かなくても、自宅にいながらにして、すべてが完結する生活が実現するのに、およそ二〇年の時間が必要だと予測されていたのです。

ところが、コロナ禍によって、^④そうした予測は完全に覆されました。わずか一、二年のうちに、リモートワークやオンライン授業、オンラインショッピング、料理や日用品のデリバリーサービスが当たり前になり、すべて自宅で完結するシナリオが現実になったからです。つまり、二〇四〇年に実現すると思われていたことが、あつというまに日常になってしまった。いいかえれば、自然の脅威^cによって、私たちは二〇年という時間を飛び越えてしまったわけです。

テクノロジーが世の中に浸透していくとき最も時間がかかるのは、多くの人に実際に使ってもらうという部分です。技術的には可能であっても、それが便利だと自分で実感して、おおぜいの人が使ってくれないかぎり、そのテクノロジーは世の中に広がっていきません。

新しい技術で貢献することをシメイ^dと考える人にとっては、つねにこの点^⑤が問題になります。インターネットを広げていくときもそうでした。実際、ビデオ会議システムも、インターネット通販も、動画視聴サービスも、COVID-19が発生する前の時点で、すでに世の中に存在しました。しかし、それらを当たり前のように世界中の人が利用するようになったのは、パンデミックによって、いわば自分事で使わざるを得ない状況が生まれたからです。しかし、こ

のような広がりには、技術をつくる側から生み出すことはなかなかできないのです。

同じことを政策的に実現しようとする、大きなコストとリスクが伴います。たとえばインターネットが普及する前、一九八〇年代のフランスでは、電話回線を通じて文字情報や簡易的な画像をやりとりするネットワーク端末「ミニテル」が各家庭に提供されました。キーボードで入力して電話番号検索をかけなければ、電話がかけられないようにしたのです。この政策は、オンラインサービスの幕開けを図りたかったフランス政府が、紙の電話帳（イエローページ）を廃止する代わりに無理やり導入したものでした。その後多くの国が、半ば強制的に技術の社会的普及を図ろうと試みました。しかし、日本はすれすれのところであつても、インターネットに関してはこのような政策をとりませんでした。私はよく、「周回遅れの先頭ランナーが日本の持ち味」という表現を使います。個人と技術の出会いを強制するのは、日本には向いてないと思うからです。

ところが、コロナ禍をきっかけに、Ⅱ 社会的普及が実現してしまった。もつとインターネットを使うよう社会を説得するのに二〇年はかかるだろうと思っていたのに、わずか一、二年で、世界中の人たちの意識が「インターネットはあつて当たり前」というところまで変わってしまったわけです。まさかこんなことが起きるなんて、誰も思っていないませんでした。

すでに日本の携帯電話の普及率は、加入数ベースで一五〇%を超えています。一〇〇%を超えているのは、一人でも何台も持っている人がいるからです。日本以外でも、アメリカやEUの主要国、北欧、韓国あたりは同じような水準です。そうした国では、ほぼすべての国民がインターネットにアクセスしていると考えられます。ITU（国際電気通信連合）によると、二〇二四年のはじめの時点で、インターネットの普及率は六七%近くに達しており、すでに五億人以上の人がインターネットユーザーになっています。

「Internet is for everyone（すべての人にインターネットを）」という目標を一九九五年に、インターネットソサエ

ティ（ISOC）の初代会長ヴィントン・サーフと議論したのを覚えています。ところが、今になってよく考えてみると、当時のインターネットの普及率は数パーセントに至らなかったはずで、そんな時代に「すべての人にインターネット」とは、ずいぶん大きく出たものだと思います。しかしながら、いまや「すべての人」が完全に視野に入ってきていて、COVID-19を経たことで、その流れがさらに加速しました。

インターネットはもはや社会全体を支える礎となっています。誰もインターネット技術を否定することはできません、無視することもできません。インターネットの恩恵は世界中の「すべての人」に行き渡る。それこそが、インターネットが「文明」であるゆえんなのです。

村井純『インターネット文明』（岩波書店）

- *1 ワールドワイドウェブ：世界中のウェブサイトをつなぐシステムのこと。
- *2 インフラ……「インフラストラクチャー」の略。社会や産業の基盤となる施設や設備。
- *3 パンデミック……感染症が世界的な規模で流行すること。
- *4 ロックダウン……感染拡大防止のため、外出や行動を制限すること。
- *5 ミニテル……一九七九年からフランスでサービスが開始されたネットワーク端末。
- *6 イエローページ……店舗や企業などの電話番号が掲載された電話帳。

問一 傍線部 a ~ e の漢字は平仮名に、カタカナは漢字に改めなさい。

問二 傍線部①「文明」と呼んで差し支えないレベルのできごと」とあるが、筆者は「文明」をどのようなものと述べているか。ここより後の本文の言葉を用いて、三十字以上四十字以内で答えなさい。

問三 傍線部②「追い込まれました」の「れ」と同じ意味用法のものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 都会の生活の中で故郷の母が思い出される。

イ 夏の間使用していたエアコンが壊れそうだ。

ウ 雨に降られてしまい大会は中止になった。

エ 先生は若いころさまざまな苦勞をされた。

オ 一週間後の本番が心配で眠れなくなる。

問四 空欄 I には「これまでも例がなく、これからも起こり得ないこと」という意味の四字熟語が入る。この

四字熟語を解答欄に合うように答えなさい。

問五 傍線部③「未来シナリオ」とあるが、筆者はこの具体例を用いてどのようなことを強調しようとしているか。適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア インターネットが私たちの生活に入り込み、より便利な社会が実現されること。
イ 技術開発が急激に進んでも、自宅で仕事をするような未来は実現されないこと。
ウ テクノロジーの浸透には時間がかかるため、世界はまだ変わらないということ。
エ 予想外のできごとによって、明るい未来予想は簡単に崩れてしまうということ。
オ 外的な要因によって、新しい技術の浸透に要する時間が大幅に短縮されること。

問六 傍線部④「そうした予測は完全に覆されました」とあるが、この原因を以下のように考えた。空欄に当てはまる語句を本文から十九字で探し、初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

COVID-19により、テクノロジーを から。

問七 傍線部⑤「この点」が指す内容について、端的に言い換えた語句をここより後の本文から十字以内で探し、抜き出して答えなさい。

問八 傍線部⑥「周回遅れ」とあるが、日本が「周回遅れ」になる理由を以下のように考えた。空欄に当てはまる語句を本文から十二字で探し、抜き出して答えなさい。

日本は しなかったから。

問九 空欄 II に当てはまる語句として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア しばらくして

イ はからずも

ウ やむを得ず

エ 同じように

オ さしあたり

問十 本文の内容と合致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 便利な技術を生み出すことに全力を注いでいれば、その技術が社会に広まる機会はいずれやってくる。

イ インターネットの普及率が上がったことによつて、自宅にいながら仕事や買い物ができるようになった。

ウ 「すべての人にインターネットを」という目標は、筆者の予想を上回るスピードで実現しつつある。

エ 日本をはじめ先進国に限っていえば、インターネットの普及率は一〇〇パーセントを超えている。

オ インターネットに依存した社会は危険なので、現代人は一度インターネットから離れてみるべきだ。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、出題の都合で改行や小見出しを省いたところがある。また、一部語句の表記については統一した。(解答は全て句読点、記号も一字に含める。)

^{*1} この映画は従来の時代劇スタイルでありながらも、現代に響くテーマが投入されていたことが魅力的に思えた作品だった。当時はちょうど^{*2}「Me Too Movement」が世界に^a旋風を巻き起こし、セクハラやパワハラ問題がグローバルな社会現象として取り上げられていたので、小松菜奈さんが演じるヒロイン役のお姫様が男性的で^b勇ましい活躍をする自立心旺盛な近代女性という設定が、海外の観客にも新鮮かつ共感できる要素に思えた。

そもそも外国では未だに「日本人女性」おしとやかで従順的」という印象が板に付いたままなので、そんな古臭いイメージを覆すのは爽快だし、ヒロインと三角関係になる二人の対照的な相手役の絡みも、脚本を読んで面白かった。

□ I 東京オリンピックを目前にして、日本のマラソンの^cハッシュウといわれる歴史的題材を扱った物語という点は、タイムリーな話題性が含まれており、時代劇でありながらも^{*3}モダンな課題を風刺した可能性に満ちていた。

しかし撮影された素材を見た時、^①シーンがほぼアドリブで演出されているのに驚いた。^{*4}それにカメラアングルも少ない上、^{*5}長回しが多い。これでは編集に使える素材が極端に限られてしまう。^{つな}繋げる素材に制限があるということは、一つの素材を延々と使うしか方法はない。そうなるとシーンの展開のリズムの調整が難しい。^②編集で魔法をかけようにも、材料が少なすぎるので、悩まされるパターンだ。さて、どうしたものか。

(中略)

『サムライマラソン』完成後、ローズ監督になぜアドリブ演出をしたのかと尋ねてみたところ、^③「日本人の役者の台詞の言い回しが硬い印象を受けたので、もっと自然な芝居をしてほしかったから」という答えが返ってきた。欧米風の演出に慣れ親しんだ監督なので無理はないと思う反面、日本の役者の芝居のどこが監督の眼に硬く不自然に見えたのか、

疑問に思わずにはいらなかった。同時に、果たして彼のアドリブ演出が芝居に良い効果をもたらしたのか、考えさせられた。

そもそも役者なら誰でもアドリブで芝居ができるわけではない。欧米の役者でさえ芝居をアドリブでこなせる人は稀である。しかも俳優に自由を与えれば良い結果が得られると言う保証はどこにもない。役者に即興で台詞を言わせて芝居を成立させるアドリブ演出は、実は相当なリスクを伴うものでもある。シーンの本質的な意図とルールを演出家と役者が確認し合っていないと、とんでもなく脱線した使いものにならない芝居を生んでしまうこともあるからだ。

欧米風の喜怒哀楽は、日本人のそれと比べて派手で見栄えがするため率直で分かりやすい。分かりやすいということはすなわち、共感しやすいというのが一般論である。

Ⅱ

映画は、そもそも「見えないものを見せる」ことができる媒体である。「見せる」演技よりも「見せない」演技の方が見栄えがするはずなのだ。『サムライマラソン』を編集しながら、登場する出演者の表情や所作を観察しつつ、日本人と欧米人の芝居の違いについて思いを巡らせずにはいられなかった。そして行き着いた結論は、日本人には日本人特有の喜怒哀楽があり、それは欧米のものと比較しても決して捨てたものではないということ。出演俳優たちの感情豊かな表情を目の当たりにして、彼らの奥ゆかしい表現力に改めてカンメイを受けた。

言葉にできない表現。言葉にしてはならない感情。日本人は言わずとも分かり合える世の中で日常を生活している。この「日本人同士だからこそ理解できる信頼」は、芝居の中でも、映画作りの環境の中でも常に存在しているものなのかもしれない。しかし「分かってるよね」とか「分かり合えてるからいいじゃん」で流してしまうのは、どこか勿体無い気がする。分かり合えていることを可能にする「得体の知れない何か」こそが、日本人特有の受け継がれ育まれているネイティブな感性だからだ。それを曖昧なままにあしらわず、その本質を理解する努力も必要なのかもしれない。なぜならそれが日本人の表現能力の基盤であり、それこそが欧米人が真似できない、彼らとは別格の日本の芸能資

産でもあるからだ。

一時期、『リング』や『呪怨』^{＊6}などのJ・ホラーが世界的なブームを巻き起こしたのを覚えているだろうか。あのジャンルの驚異的な成功の裏には、日本独特の思想概念があると睨^{にら}んでいるのは私だけではない。例えば「情け」の概念。これは善悪の区別がはっきりしている欧米思想にはない概念の一つで、どんな悪にも情けをかけられる善が肯定できる日本人の発想は、^⑤西洋では常識外れなことなのだ。善悪が対立せずに共存して同化さえ可能にしてみようアジアの自然概念は、全ての生命体に神（命）を宿することができる。すなわち「悪を理解すること、悪にカンヨウ^eになれること、悪を許すこと」の原理こそが、欧米人の理念では理解を絶する何よりも恐ろしい現象だったのだ。

欧米人にとってJ・ホラーは、怪物や幽霊などという非人間的な存在をヒューマナイズ^{＊7}させ、それに感情移入を可能にすることで、悪に対する恐怖を今までにない複雑かつ新鮮な恐怖として体現させたジャンルだった。善悪のバリアが失われてしまう不気味さ。悪にも同情できる人間の本性。そんなアンビバレンス^{＊8}な世界観と価値観に、欧米人は底知れぬ異質な快感を覚えたに違いない。

外国の監督が日本人の俳優を演出したり、日本人監督が外国人俳優を演出するところか違和感が尾を引くのは、欧米の尺度では一筋縄ではいかない日本人独特の思想概念と感情表現に基づくものだからかもしれない。だとするとこれは日本人の映画演出において、とてつもない威力を放つ武器になるはずである。

日本の古典芸能である能の喜怒哀楽は、あくまで「動作」を意味するという。

例えば、「喜」。これは動きで表せば、「開く」所作（扇を開く動作＝心を開く＝嬉しい）。次に、「怒」。これは「打つ」所作（閉じた扇で空を切る又は叩く動作＝怒り）。「哀」は「しおり」や「萎える」所作（体が閉じたり折る動作＝悲しい、もしくは座る動作＝深い悲しみ）。「楽」は哀の動作の角度を変化させることで表現される。

このように能における全ての感情表現は、発声や表情によるものではなく、あくまで眼で捉えられる動作に託し、そ

の動作の強弱の加減で感情の旋律（音量）を調整する。日本人にとって感情は言葉である前に「姿」なのだ。言わない、言えない言葉を型や所作によって表現することが日本の芸能のDNAであるならば、これほど映画演出に適した表現法はない。

余談だが、能の世界では能面をつけることを「かける」と言い、まさに魔法にかけられて何かが憑依する意味合いがこもっている。能の仮面は一定のもの。それでも物語によってかけられた仮面の動き加減に心情の陰影を投影することとで、さまざまな感情表現を可能にする能楽。主人公の一定のシヨットの喜怒哀楽の加減を、前後のシヨットと繋いで意味合いを調整するという、編集でかける魔法とどことなく似ている気がしないでもない。「いつ、どの瞬間で動作を切り、どの動作に繋げて見せるか」で観客に情動を引き起こさせるのが編集者の仕事なら、極端に言えば台詞や感情表現が無くても、役者の手や体の動きや眼の動きなどの所作の振り付けだけでドラマを成立させることができるはずである。そして台詞と台詞の「間」という静止した状態の所作さえもマイナスではなくプラスの計算された動きとして活用できる。

演技は仮面。仮面をかけることで魔法がかかる。喜怒哀楽の仮面を観客の眼にどう映すかで、数えきれないニュアンスの人間の心の動きを表すことが能楽師の醍醐味^{だいごみ}ならば、どんな映像でも見せ方次第であらゆる感情を観客に感じさせることができるのは、編集者の醍醐味と言えるであろう。

上綱麻子『映画の切り札 ハリウッド映画編集の流儀』（星海社）

- * 1 この映画……………バーナード・ローズ監督による『サムライマラソン』のこと。
- * 2 #Me Too Movement…SNS上で「#MeToo」というハッシュタグを用いて、自身の性的暴行被害などを告発・共有する運動。
- * 3 モダン……………現代的。
- * 4 カメラアングル……………映そうとする対象に対するカメラのレンズの角度。本文では「カメラアングルを変更する回数」を指す。
- * 5 長回し……………カットせずに長い間カメラを回し続ける映画作品の技法。
- * 6 J・ホラー……………一九九〇年代から二〇〇〇年代にかけて流行した日本のホラー映画全体を指す。『呪怨』や『リング』もその中の一つ。
- * 7 ヒューマナイズ……………人間らしく、温かみのあるものにする事。
- * 8 アンビバレンス……………同一の対象に対して正反対の感情を抱くこと。
- * 9 憑依……………人のからだに乗り移ること。
- * 10 ショット……………中断されないひと続きの映像。

問一 傍線部 a～e の漢字は平仮名に、カタカナは漢字に改めなさい。

問二 空欄 I・II に当てはまる語句として適当なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ しかし ウ なぜなら エ むしろ オ しかも

問三 傍線部①「シーンがほぼアドリブで演出されているのに驚いた」とあるが、筆者がアドリブ演出に驚いたのはなぜか。理由として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 役者の経験が浅いと、演技の打ち合わせが不十分になり監督の思うシーンを撮影できない可能性があるから。
イ 役者の表情がバラバラになると、シーンに統一性がなくなつてさまざまな解釈が生まれる可能性があるから。
ウ 演出家と役者がシーンの意図を確認し合っていないと、編集の施しようがない芝居を生む可能性があるから。
エ 役者に自由を与えると、演出家が周囲の雰囲気にもまれて思ったような指示ができない可能性があるから。
オ シーンの問題を役者に負わせると、表情がこわばつて良い演技ができなくなつてしまう可能性があるから。

問四 傍線部②「編集で魔法をかけようにも」とあるが、映画編集における「魔法」とはどのようなものか。適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア シーンを繋いで、演出家の意図とは全く異なるシーンを作り出すもの。
イ 役者に喜怒哀楽の仮面をつけさせて、観客にあらゆる感情を感じさせるもの。
ウ 動作の一部を別の動作に繋げて、現実には起こり得ない現象を作り出すもの。
エ あるシーンと別のシーンを繋ぐことで、感情表現の意味合いを調節するもの。
オ 一つの映像を切り分けて、種類の異なるさまざまな作品を作り出すもの。

問五 傍線部③「日本人の役者の台詞の言い回しが硬い印象を受けた」とあるが、監督がどのように感じたのはなぜか。理由として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 監督は映画に欧米人しか起用したことがなく、日本人への理解が足りなかったから。

イ 日本人の喜怒哀楽の表現は、欧米人と比べて遠回しで、分かりづらいものだから。

ウ 国籍の異なる監督と役者とが作り上げる映画現場には、文化の壁がつきものだから。

エ 欧米式の演出に慣れた監督にとって、日本の歴史的題材を扱った作品は未知なものだから。

オ 日本人の「見せる」演技よりも、欧米人の「見せない」演技のほうが見栄えがするから。

問六 傍線部④「日本人同士だからこそ理解できる信頼」とあるが、この「信頼」は何に基づくものか。本文から二十五字程度で探し、初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

問七 傍線部⑤「西洋では常識外れなこと」について、以下のように説明した。空欄 A・B に当てはまる語句を本文からそれぞれ指定された字数で探し、抜き出して答えなさい。

欧米人は A (十四字) ため、J・ホラーに描かれた悪にも同情できる日本人独特の思想概念は、

B (十六字) だということ。

問八 傍線部⑥「一筋縄ではないかない」の意味として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物事が終わった後に後悔しても手遅れであるということ。

イ 十分な準備をしていないと成功しないということ。

ウ 何かをするためには時間が必要であるということ。

エ 普通的手段ではうまく処理できないということ。

オ 努力の方法を誤っては成功できないということ。

問九 傍線部⑦「能の喜怒哀楽」について、能における感情の捉え方を以下のように説明した。空欄

A・B

に当てはまる語句を本文からそれぞれ指定された字数で探し、抜き出して答えなさい。

能において、感情は A(二字)である前に B(九字)を意味する。

問十 本文の内容と合致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 能楽において、体を閉じたり折ったりすることは怒りを、開いた扇で空を叩くことは悲しみを表現している。

イ 『サムライマラソン』はヒロインが自立心旺盛な性格であるため、日本の観客が共感しやすい作品となった。

ウ 役者なら誰でもアドリブで芝居ができるわけではないが、欧米人は比較的アドリブを得意としている。

エ 素材を繋げたり「間」を生かしたりすることで観客の感情を呼び起こすが、編集者の役割である。

オ 日本人の感情豊かな表現力は、「見せない」演技を最重要視する映画の演出に適しているといえる。

	得点
--	----

11